

「地域での支えあい」によるまちづくりを目ざして

市では、「天草市地域福祉計画」を策定し、地域における福祉活動の実践や基盤づくりが推進できるよう、市民・社会福祉協会・行政が連携を深め、すべての人が生涯にわたり、生きがいを感じながら暮らせるまちづくりに取り組んでいます。そこで今号では、その中で特に重要な「地域福祉」について考えていきます。

そもそも「地域福祉」って何？

地域福祉とは、高齢者や障がい者、児童などを取り巻きさまざまな福祉課題に対して、従来どおり制度や施設などで対応していくことに加えて、これらの基盤として、制度や施設などの枠を超え対象者を限定しない、地域という視点に立った『地域での支えあい』を高めていくという考えです。

この地域での支えあいという考えの中には、ふだんの支えあいとしての「地域見守りネットワーク」、いざというときの備えのための「災害時要援護者登録制度」、そして、いざというときの対応のための「自主防災組織」などがあります。市地域福祉計画では、これらの身近な暮らしの場でも支えあうという地域福祉を推進しており、「誰もが、安心・充実して健康に暮らせること」を目ざしています。

なぜいま「地域福祉」福祉を取り巻く市の現状

●人口と世帯構成の現状

別表1は、市の人口や世帯数、高齢者数などを示したデータです。市の人口は毎年約1,500人のペースで減少する中、高齢化率（総人口に占める65歳以上の人の割合）は30%を超え、約3人に1人が高齢者という「超高齢社会」にあります。一方、世帯数にはあまり変動が見られないことから、核家族化が進行していることがわかります。

このような中、市内の独居高齢者（65歳以上のひとり暮らし世帯）は年々増加。平成22年には7,467世帯にのぼり、これは市内の全世帯の約2割を占める数値です。また、この数値に同年における高齢者2人世帯（65歳以上の2人暮らし世帯）の数4,790世帯をあわせると12,257世帯になり、市内の約3世帯に1世帯は独居高齢者世帯と高齢者2人世帯であるということになります。

別表1 ◆人口と世帯構成の現状

区分	平成20年	平成21年	平成22年
人口(人)	95,599	94,525	93,098
世帯数(世帯)	37,944	38,005	37,892
高齢者数(人)	30,115	30,216	30,099
高齢化率(%)	31.5	32.0	32.3
独居高齢者(人・世帯)	7,140	7,275	7,467
高齢者2人世帯(世帯)	4,874	4,753	4,790

※各年3月末日現在

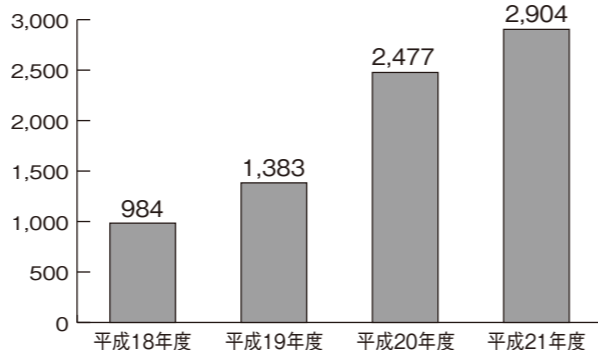
●増え続ける相談数

別表2・3は、地域包括支援センターへの相談件数と子育て支援課等に寄せられた児童相談などのデータで、ほとんどの項目で増加傾向にあることがわかります。これは、同センターなどにおける相談体制の充実が図られた結果である一方、日々さまざまな悩みを抱えながらも、周囲には相談できないでいる人たちが多くいるとも考えられます。

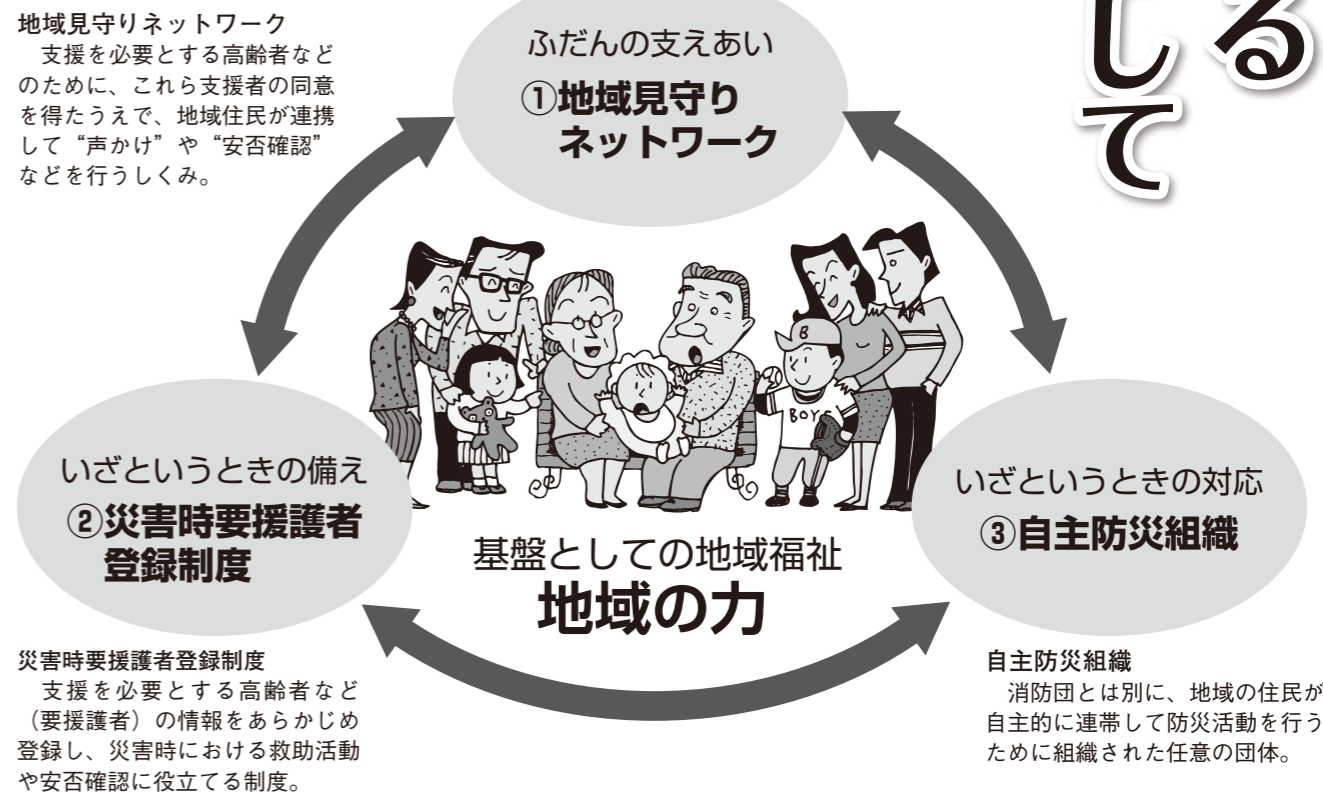
別表3 ◆児童相談などの相談件数

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
児童相談	658	687	789	1,147
児童虐待	11	15	26	39
女性相談	496	386	199	178
DV相談	18	15	16	16
孤独死	—	26	17	24

別表2 ◆地域包括支援センターへの相談件数



◆イメージ図



だからいま「地域福祉」といつ考えようか

このように、少子高齢化、核家族化が急速に進み、さらには個人の価値観や生活スタイルが多様化してきていることもあり、地域に住んでいる人どうしがともに支えあい、助けあうというつながりが希薄になっていくと考えられます。しかし、このことが孤独死や虐待、ひきこもりなどあらたな社会問題が生じる原因にもなっています。

このため、いまこそお互いに「支えあい、助けあう」という関係を築いていくこと、つまり「地域福祉」という考え方が重要になっていくのです。

